

航空機整備士・製造技術者養成連絡協議会

各ワーキンググループとりまとめ概要
(令和2・3・4年度)

整備士養成ワーキンググループ

具体的な検討・取組み内容

■ 整備士の英語能力向上

- ・これからの時代に適した最新の英語学習法を知り、実践することを目的として開催しており、従来の「航空英語学習講座」【入門編】と【応用編】の2編成から【基礎編】（旧入門編）、【入門編】（新設）、【応用編】、【発展編】（新設）の4編成へと再編し、整備士の英語能力の更なる向上に向けた取組を実施。（計12回）
- ・スマートフォン用Webページ「スマホで航空英単語」については、アクセス数の順調な伸びを背景に内容拡充した。
※アクセス数 約4.4万件（令和5年3月末現在）

■ 整備管理従事者の養成

- ・昨年度から引き続き、整備管理従事者講習会【入門編】（2日間コース）及び【専門編】と位置づけた「航空機耐空性管理コース（法と運用、MRB,MEL）」（2日コース）を継続して実施。（入門編×3回（うち1回中止）、専門編×4回）

■ 整備士の技量・技能の維持・伝承

- ・これまでの取組において知見や技法等の共有と蓄積がある程度進んできていたことを受け、発表会がより充実した内容となるよう継続しているが、具体的な検討には至らなかった。

■ 中長期的な整備士の養成のあり方に関する検討、外国人材の活用等

- ・「国土交通大臣指定航空従事者養成施設連絡協議会」を開催。
（令和2年度中止、令和3年度9月オンライン、令和4年度9月対面）
- ・外国人材の活用に係る制度について、特定技能評価試験（航空機整備）を海外（モンゴル国）において令和3年・4年に実施し、令和4年4月に3名（令和元年合格者）受け入れ実施。本制度の運用については、航空分野特定技能協議会で討議内容等を適時情報共有し調査等があれば協力していく。

今後の検討課題・取組み等

■ 整備士の英語能力向上

- ・学校教育機関や航空会社、整備・製造会社等での普及状況をモニターしていく。

■ 整備管理従事者の養成

- ・整備管理従事者講習会【入門編】及び【専門編】を実施するため、その実施状況を共有していく。

■ 整備士の技量・技能の維持・伝承

- ・発表会で共有され蓄積されてきた知見や手法等をもとに、整備士の技量・技能の維持伝承に関するPDCAサイクルの実践への取組について検討をしていく。

■ 中長期的な整備士の資格制度のあり方・養成のあり方、外国人材の活用等

- ・中長期的な養成・人材確保については、各機関での取組内容を共有していくこととし、必要に応じてWGを開催することとする。

製造技術者ワーキンググループ

具体的な検討・取組み内容

1. 技能認定制度の検討

- ・中部地域で従来から実施している「航空機製造技術者育成講座（構造組立初級）」については、生産需要の伸び悩みを受け、想定した受講者数を下回るケースが多かった。現時点で民間検定試験として、受検生の確保をすることは困難との認識で一致した。

2. 非破壊検査員の人材育成

- ・「日本航空宇宙非破壊試験委員会」を中心に、訓練機関・試験機関と構築した連携体制のもと、非破壊試験技術者育成に必要な制度のうち、資格試験を実施、適格性評価証明書を発行した。
- ・非破壊試験及び当該認証体制の国際動向把握のため、PRIと我が国の体制整備に係る情報共有及び示唆を得た。
- ・今後の制度継続・拡充に向けた検討を行うべく、日本航空宇宙非破壊試験委員会への助言・支援を行う「日本航空宇宙非破壊試験アドバイザリー委員会」を立ち上げた。

今後の検討課題・取組み等

■ 技能認定制度の検討

- ・今後の機体需要等の業界動向を踏まえ、受検生確保の目途が立ち、大手製造各社の総意により、国家技能検定化を踏まえた民間検定試験への移行の希望がなされた場合に「技能認定制度検討分科会」の開催を検討する。

■ 非破壊検査員の人材育成

- ・非破壊検査人材育成プログラム（資格試験）の体制構築・拡充、構築体制の国際承認制度への準拠、訓練講座の講師候補の探索、等の検証を実施する。

裾野拡大ワーキンググループ

具体的な検討・取り組み内容

■ 女性操縦士・女性整備士・女性製造技術者の増加に向けた取組

- ・ 現役の女性操縦士・女性整備士・女性製造技術者による講演会を開催。
（令和2年度中止、令和3年度オンライン、令和4年度対面）

■ 航空機産業人材確保に関する取組み

- ・ 経済産業省（中部経済産業局）において、高等専門学校（高専）の学生を対象に国際的商談会の見学を開催し、若年層に対する航空機産業の仕事への理解の促進を図るとともに、航空機関連企業等による人材確保に係る支援を行った。（令和3年度）
- ・ あいち・なごやエアロスペースコンソーシアムでは、社会人向け航空宇宙産業製造人材育成講座（オンデマンド）を行い、即戦力となるための知識の定着を図った。加えて、高校生・大学生・専門学校生等向けの教育プログラムも実施し、航空宇宙産業の仕事に対する興味・関心を醸成した。
（令和2～4年度）

■ その他裾野拡大に関する取組

- ・ 全国工業高等学校長協会主催で実施している教員に向けた夏季講習会で航空に関する講座を開催
（整備士およびグランドハンドリング 令和4年度15講座開催し88名の参加）
- ・ 子ども霞が関見学デーへの協力
－ 現役操縦士等によるお仕事紹介、日本航空学園によるフライトシュミレーター体験 等
- ・ 各航空会社・各団体における取組み（航空教室の実施、工場見学等）

今後の検討課題・取組み等

- 「女性航空教室」、「夏季講習会」、「子ども霞が関見学デー」、その他講演会等のイベントについては、積極的に引き続き計画・実行していく。
- 航空機産業人材確保については、これまで高専生に対して専門技術者による講義等を実施し一定の成果が出たことから、引き続き、大学、高専、専門学校と連携した学生向け取組みを検討していく。